

銅鑼造りの名工・魚住為楽

〔Ⅲ〕

木 村 弘 道

銅鑼の製法

銅鑼とは金盞のような形をした鳴物で、その中央に「へそ」と称する丸い凸起部のあるものと、凸起部のない平面的なものがある。

「へそ」のない銅鑼は出船や陣中の銅鑼で、打つと音波の乱れた「ガランガラン」といった音がでるが「へそ」のある方は、その中央の凸起部で音波を統一して「ポーナー」と誠に微妙な音色が余韻を引く。

また、その製法にも鑄型を作り、合金を溶かし鑄型に流し込んで形を作る鑄物の法と、合金の薄い板を鎚で打って成形する打物の法の二種類がある。

魚住為楽の銅鑼は、形は「へそ」のある方で、製法は鑄物である。

製法は、まず原型作りより始まる。原型の材料は、山から採取した山土すなわち山の粘土と粃殻と炭の粉を三分の二づつを混ぜ合わせたもの、あるいは魚住為楽の後継者である魚住安彦氏の言によれば、粘土をやや多めに粘土と粃殻を1対2位の割合でもよい由であるが、これでそれぞれの原型を作る。

なお、この粃殻を入れる法は魚住為楽の創案で、原型を乾燥させ素焼すると、粃殻は灰になり、型の亀裂を防ぐ働きをするという。

次に、原型の上へ季節やその日の気温によりやや異なるが、大体松脂10に、黄臘1.2の割で調合したものを銅鑼の予定の厚さに伸ばしながら張り付ける。その厚さは安彦氏言によれば約1mm位である。次いで、その上に粘土と細かい焼土に和紙あるいは綿をまぜた苧土を1cm程塗り、その上に粗土を塗って鉄線を入れ乾燥させてから、更にいま一度、銅鑼の大きさにより異なるが、厚さ6cm余り土を塗りつけ鑄型ができあがる。

鑄造には、まず型を火の中に入れて長時間焼

く、そうすると中に張った松脂と黄臘とを合せたものが熱で溶けて出て銅鑼の厚さの空間ができる。その空間に銅100に錫26の割で合金したものを熔解し流し込む。

鑄物ができあがると一応全面を鑊で削り、地金をやわらかくするため銅鑼を赤くなるまで焼いてから、水に入れ急激に冷却する。次に分子を密にするため銅鑼の厚さを0.7~0.8mm位になるまで細かい成形をしながら鎚打を行い、中心の「へそ」の周囲にくぼみをつけ、そのくぼみから周辺に流れるふくよかな線と、更に内部に打返す微妙な曲線をととのえて形を完成する。

形ができあがると、音響をよくするため焼入れをする。焼入れは銅鑼を暗紅色になるまで焼いてのち徐々に冷却する。銅鑼製作のコツはこの鎚打と焼入れにあるという。

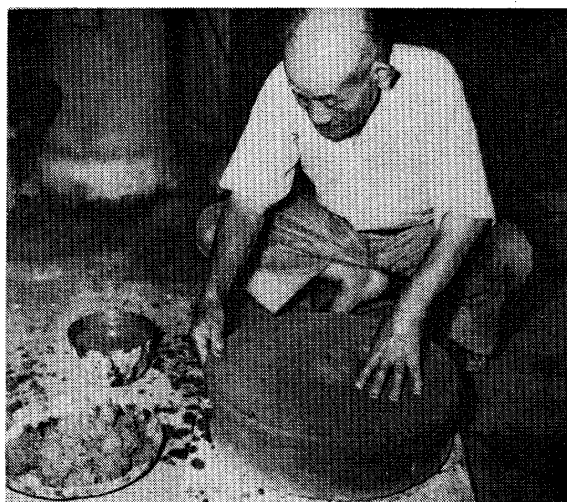
最後に着色をして銅鑼は完成する。着色は、硫黄と硫酸鉄と塩を各々三分の二づつの割合のもので地肌を荒し、生漆と松煙を塗って焼き、拭き上げると奥深い味わいのある色艶になる。以上は魚住安彦氏のご教示による。〔写真および写真説明を参照〕

写 真 の 説 明

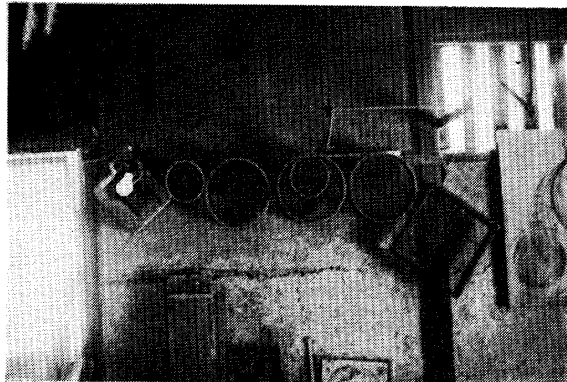
- (1) 原型の製作……中子取り。
- (2) 銅鑪の形ができ中子の表面完成。
- (3) 粘土の焼いたものを碎き篩にかける。
- (4) (3)の土を水で溶きどろどろになったものを(2)に掛ける。マネ土引き。
- (5) 原型完成し乾燥させる。
- (6) 鑄型（蠟型）の断面。上の四個の土は、土の調合見本。
- (7) 炭を使って型を焼く。
- (8) (7)の炭で型を焼くときの土手。土手の囲いは銅鑪の大きさにより適当に作る。
- (9) 合金を熔す炉。
- (10) 合金を熔すとき使用する道具類。
- (11) 鑄出した銅鑪。
- (12) 鑄出した銅鑪の断面。
- (13) 熱処理。
- (14) 熱処理。
- (15) 熱処理に使用する水槽。
- (16) (17) (18) (19) 熱処理で地金をやわらかくしたのち鑢を掛けたり鎚打を行ったりして分子を密にし形をととのえる。
- (20) 形完成す。
- (21) 焼入。上にブリキを乗せ熱の逃げるのを防ぐ。
- (22) 持出し。
- (23) 焼入最後の工作で太い木で押す。
- (24) 工房で音色を試す。
- (25) 完成した作品の音色を聴く。
- (26) 着色も終り作品完成す。



(1)



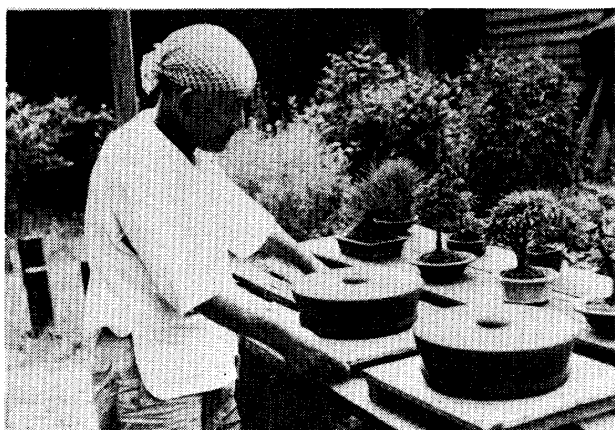
(2)



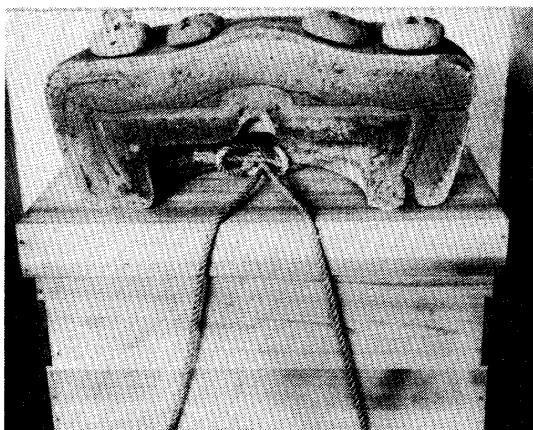
(3)



(4)



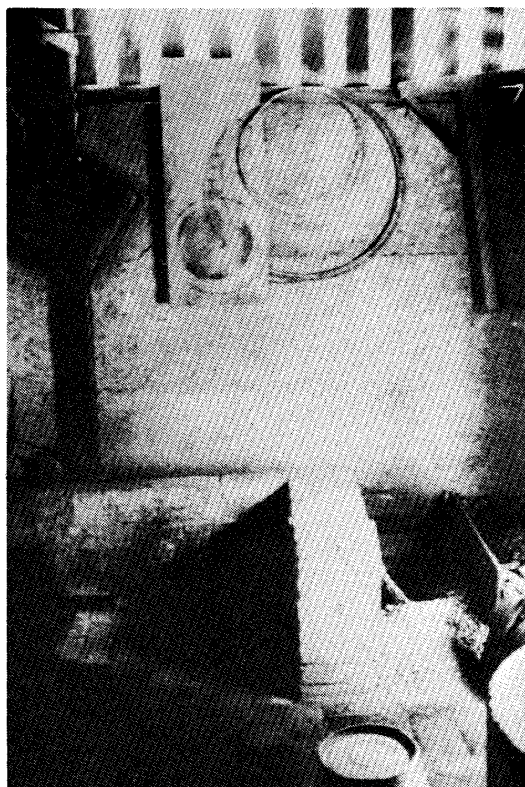
(5)



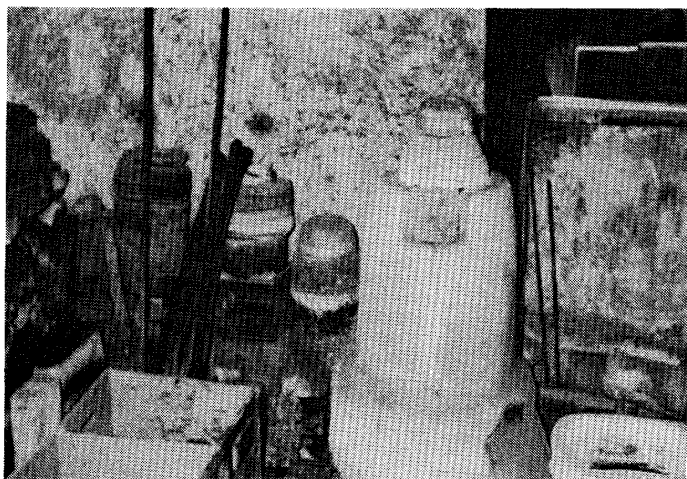
(6)



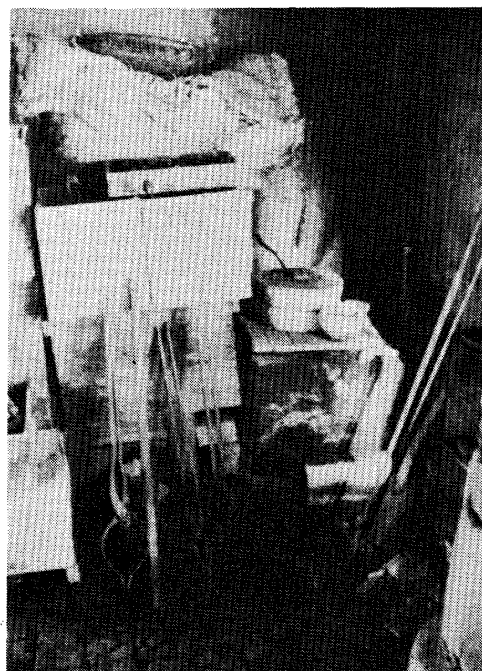
(7)



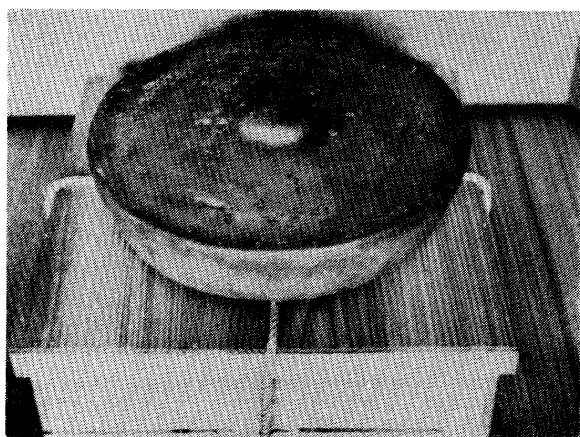
(8)



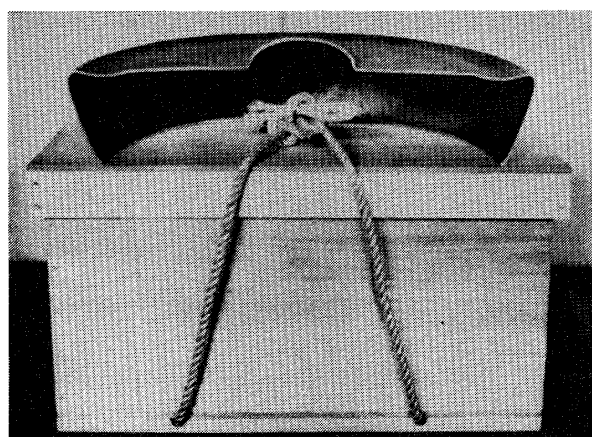
(9)



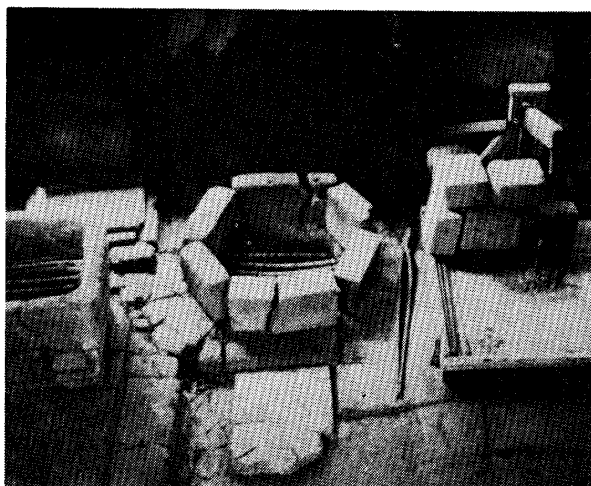
(10)



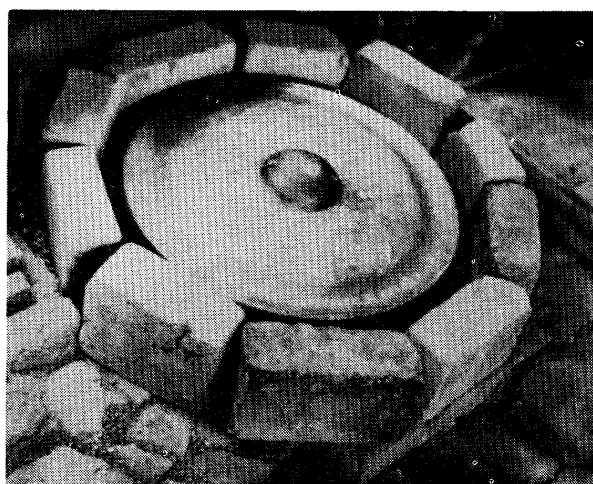
(11)



(12)



(13)



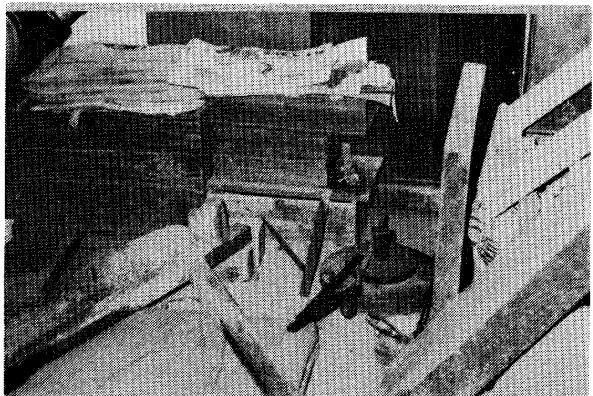
(14)



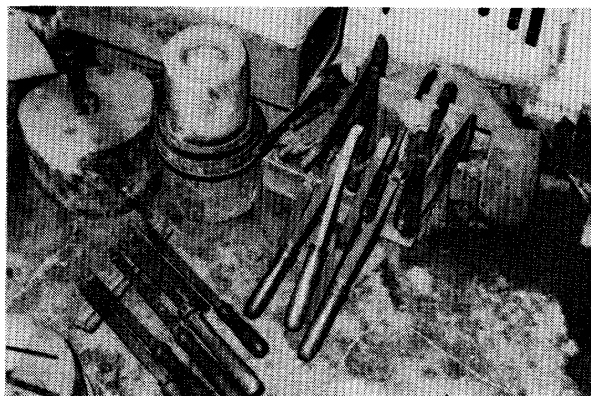
(15)



(16)



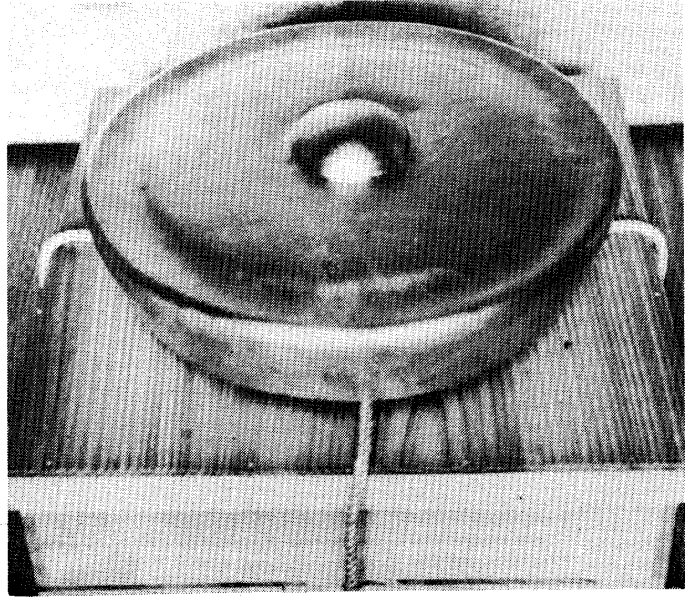
(17)



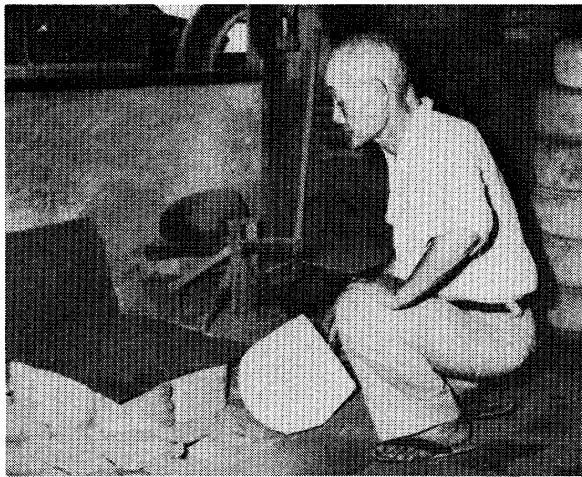
(18)



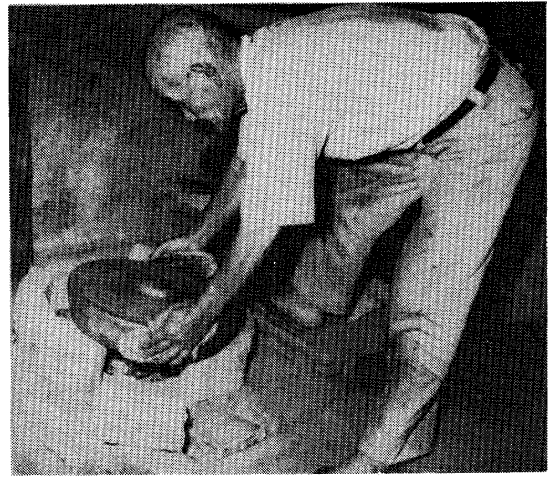
(19)



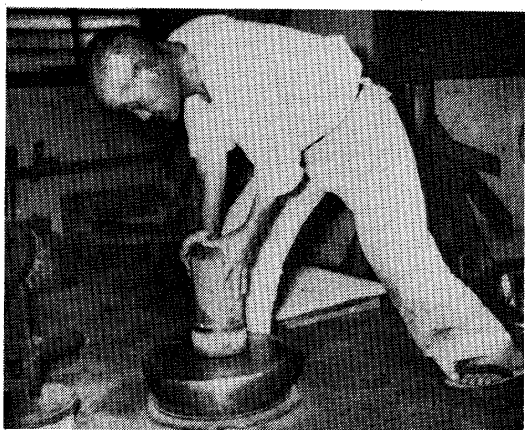
(20)



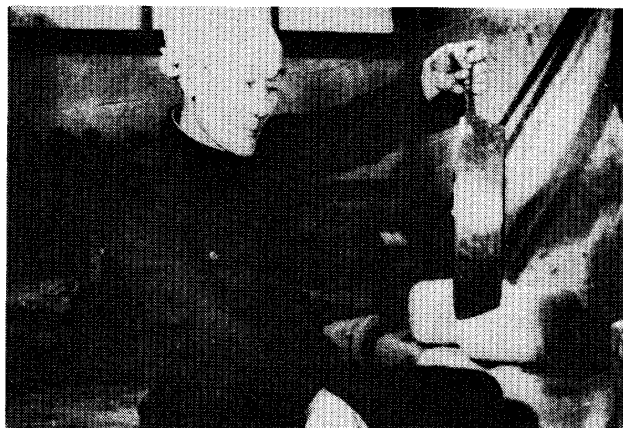
(21)



(22)



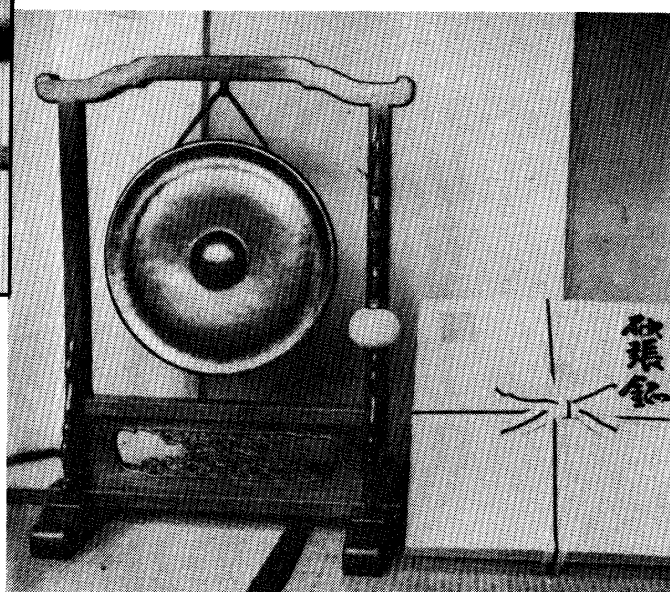
(23)



(24)



(25)



(26)